

肯定側立論 (200words) :

資料 8 より、世界全体の CO₂排出量が横這いになっている事が分かる。また、割合の多くを占める中国についても同様である。加えて資料 1 より再生可能エネルギー導入容量が 2012 年からの 8 年間で 2 倍超に増えており右肩上がりであることを鑑みると、上記の傾向は続くと考えられる。したがって気候変動は止まると考えられ、私は論題を肯定する。

否定側立論 (200words) :

資料 7 により、中国・インドの排出量は 30 年で 3 倍以上に増加しており大きな割合を占めている事が分かる。両国は非常に人口が多く人口を合計すると世界人口の四半分を占める。更に両国は発展途上であり、経済成長率が高く発展の余地が非常に大きい。したがって、排出量が非常に多い両国の排出量を減らしていくことは困難である。つまりは世界全体での排出量を減らしていくことは困難であり、私は論題を否定する。

対肯定側反駁(100words):

資料 2 より 10～19 年間で原子力+再生可能の割合は 5%程度しか増加していない。資料 5 より世界全体の発電量は 2 倍増加している。よって実際は化石燃料由来の消費電力量は減少していない為、立論を否定する。

対否定側反駁(100words):

資料 8 より近年インド・中国での排出量は横這いである。資料 3 より、インド・中国が発展途上にも関わらず電気消費の 2 割を自然エネルギーが占める事から、排出量を減らすことは困難ではないと考え立論を否定する。